

## 祝 辞

二〇〇八年三月末日を以て、日本文化学科の教員お二人、近藤讓治先生と山田正浩先生がご退職されます。ともに定年での退職です。万感の思いを込めて申し上げます。

おめでとございます。

お二人の先生は、県立大学の瑞穂区高田町時代から、おなじ文学部一般教育に所属され、長久手町移転後は、ともに新設の文学部日本文化学科に所属されました。長くこの愛知県立大学を研究と教育の場としてこられたご功勞に、心から感謝致します。恐らく先生方お二人にとっても、感慨深い節目を迎えられたことと拝察します。

日本文化学科の教員や学生にとって、近藤讓治先生や山田正浩先生と同じ場所と時間で大学人生活を過ごせたことは、真に誇りです。そこで、日本文化学科では、この大事な節目をお祝いしたいと考え、紀要をご退職記念号として編集し、両先生に献呈させていただくことに致しました。

近藤讓治先生は、目先の知識でない教養の奥行きと広さが、人間形成と強く結びつく点を、濃密な読書空間たる研究室から発散されていきました。旧制高校の良き先生の風貌を、今日に蘇らせてくださる存在です。

山田正浩先生は、船大工の棟梁ともいべき存在で、日本文化学科の船出だけでなく、文学部や愛知県立大学にとって、的確で緻密なご指示は常に乗員の頼りでした。教員・学生にとって、身近さの点でも第一の地理学研究者です。

日本文化学科は、両先生ご退職の日を以て、ちょうど設立十年を過ぎたこととなります。この機を迎えて、これまでのことを振り返り、また将来への道のりを確かなものになりたい、という気持ちが湧いてきます。山田先生には、特別お願いして、十年間のことをまとめて記録していただくことに致しました。卒業生・在学生あわせて約五百人、

在籍した教員十七人、それぞれの思いを重ね合わせて読まれることと思います。「日本文化」というテーマを軸に研究し、教育し、学んだ意味は、なお今後に見出されていくに違いありません。人類規模で連動する現代社会の進行は、かえってその意味を問い返させることになるでしょう。大学改革の今後がどのように進んでも、このことは揺るがなないと確信します。懐かしい十年をたどって迎えるこの節目は、理想や志をもって将来を展望するための、大事な機会だと思えます。

この大事な時期を、先生お二人の人生行路の門出において、ともに迎えることができたことを、日本文化学科一同、たいへん嬉しいことと感じています。

近藤譲治先生、山田正浩先生、これまでどうも有難うございました。まだまだお願いしたいことがあるような気が致します。一肌脱いでくださる機会を楽しみにしつつ、ここでは、ご退職の慶事への祝辞とさせていただきます。

二〇〇八年三月

日本文化学科主任 上川 通夫

井戸 聡 稲村 哲也

大塚 英二 川畑 博昭

樋口 浩造 丸山裕美子

山村 亜希 與那覇 潤